



とやま
呉西圏域

連携中枢都市圏

第3期都市圏ビジョン(最終案)について

第3期ビジョンの策定について

都市圏ビジョンの策定の趣旨

○都市圏ビジョンは、人口減少・少子高齢化社会においても、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とする「連携中枢都市圏構想」に基づき、圏域の将来像や将来像実現のための具体的な取組を定めるもの

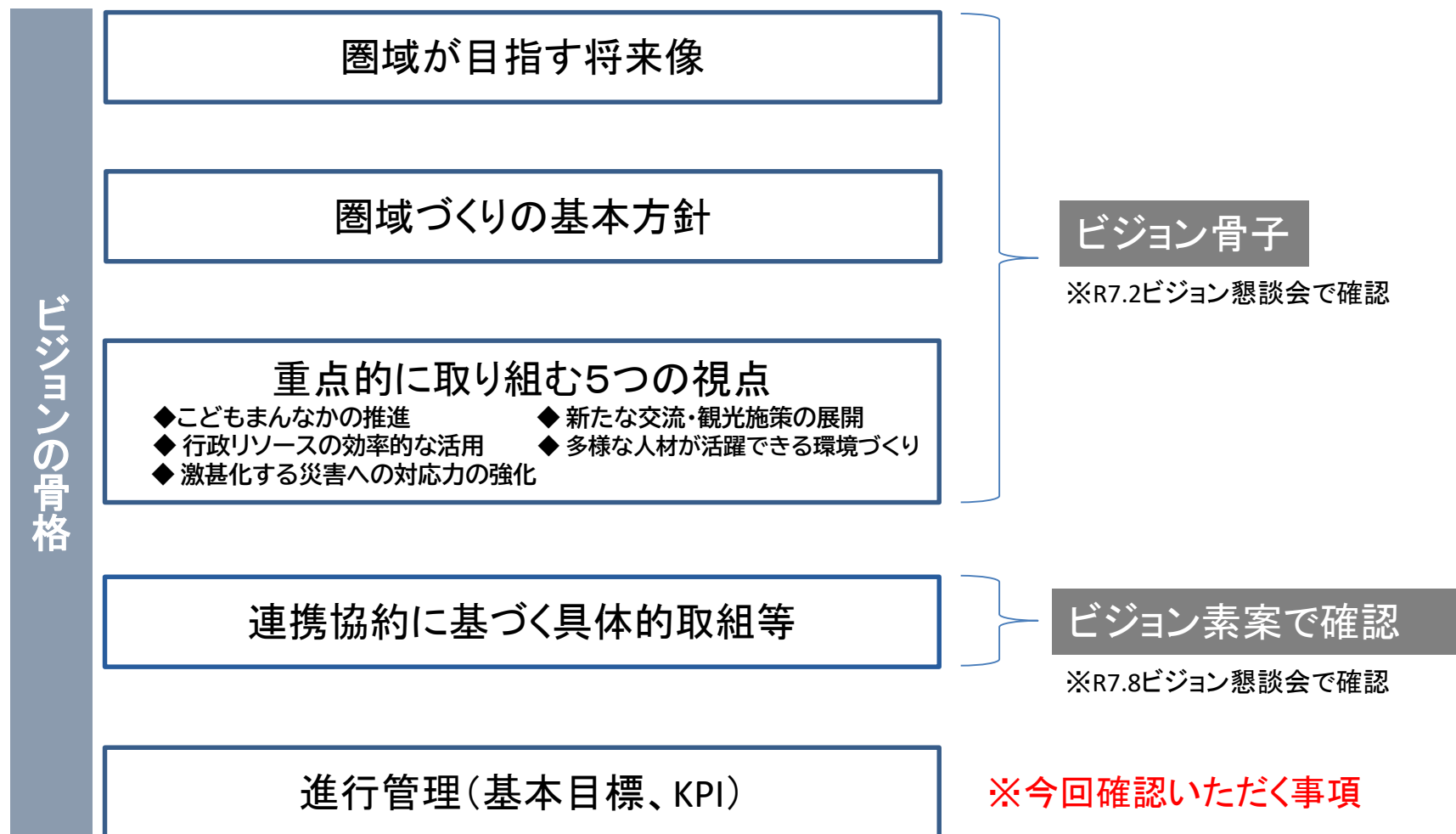
○現行のビジョンは、計画期間が令和7年度までとなっており、
・加速化する人口減少・少子化対策への対応
・激甚化する災害への対応力の強化
・北陸新幹線敦賀開業を契機とした新たな交流・観光施策の展開
などの新たな課題に直面している。

○これらの課題に対応するためには、6市による連携の枠組みを維持、強化する必要性がますます増加しており、圏域全体の経済を持続可能なものとし、住民が将来にわたって安心して快適な暮らしを営んでいけるよう、令和8年度を始期とする第3期ビジョンを策定する。

計画期間

2026年度(R8年度)から2030年度(R12年度)の5年間

第3期ビジョンの策定について



第3期ビジョンの策定について

令和6年度

令和7年2月18日 ビジョン懇談会

令和7年度

令和7年8月19日 ビジョン懇談会
第3期ビジョン素案の確認

令和7年10月～11月 パブリックコメント

・連携協約の一部を変更する連携協約を締結

令和8年2月 ビジョン懇談会
・第3期ビジョン最終案の確認

令和8年度～

第3期ビジョン開始

ビジョン骨子の決定

- ・連携事業の調整
- ・ビジョン素案の作成

ビジョン素案

- ・意見の反映（パブコメ、委員等）
- ・KPIの設定

【12月議会】
連携協約の変更協議

ビジョン最終案

ビジョン策定

パブリックコメントの実施結果について

実施期間: 令和7年10月6日～11月7日

件数: 10件(連携協約に基づき推進する具体的取組に対する意見4件、
その他の意見6件)

No	意見等の概要
1	①圏域内の企業が連携するプラットフォームを構築し、共同での技術開発や販路開拓を支援してみては。 ②観光資源を組み合わせた広域周遊観光ルートを開発し、国内外へ一体的なプロモーションを展開する体制を構築してみては。
2	①鉄道やバス等の既存交通と、AIデマンド交通などを連携させ誰もが圏域内をスムーズに移動できる環境を整備してみては。 ②遠隔医療やオンライン教育などを推進し、質の高い生活サービスを受けられるスマート圏域を目指してみては。
3	①長期的な視点でのコンパクト＆ネットワークのまちづくりを推進してみては。 ②圏域全体で最適配置を考え、施設の統廃合や機能連携を進めてみては。
4	観光地を回れる企画してみては。呉西地区の観光資源を最大限活用するためにも、交通ネットワークを整備してみは。

令和8年度の連携事業について

■令和8年度予算の概要

年度	連携事業の数	予算額
令和7年度	33事業	432,473千円
令和8年度	31事業	381,647千円

主な増減理由

増減額

3年に1度のデジタル航空写真の共同撮影の実施

▲59,289千円

■新たな取組

- ・ 少子高齢化が進む中で、健康寿命の延伸や未病対策のための切れ目のない保健サービスの維持が今後ますます求められていくことから、各市の現状や直面している課題を共有し、解決に向けた情報交換・検討を行うことができるシームレスな体制を構築するため以下の事業を立ち上げる。


事業名	主体市	連携市	事業の概要
保健サービスに係る連携促進事業	高岡市 小矢部市	他4市	将来的な連携を見据えて、保健分野を中心に各市の状況や取組を共有するとともに、住民の健康づくりを目的とする取組の充実に向けた対策を検討する連絡会議体制を構築する。

第3期ビジョンにおける基本目標及びKPIの設定について

設定方針

第2期

- ・3つの圏域の役割それぞれに位置付ける連携事業にそれぞれ基本目標と重要業績評価指標（以下、KPI）を設定
- ・呉西圏域の取組の進捗状況は連携事業ごとに設定する事業指標を用いて管理



課題：KPIにアウトプット指標とアウトカム指標が混在しており、
指標を用いた評価の視点レベルにバラつきがある

（例）

- ▶ アウトプット指標：「伝統産業品の展示PR件数」、「研修回数」など
- ▶ アウトカム指標：「農業産出額」、「移住・定住者数」など

第3期

- ・基本目標とKPIは、圏域の現状を計る指標として設定するものとして整理
（KPIはアウトカム指標のみとする、アウトプット指標は事業指標としてフォローする）
- ・呉西圏域の取組の進捗状況は連携事業ごとに設定する事業指標を用いて管理する

第3期ビジョンにおける基本目標及びKPIの設定について

圏域の役割

(1) 圏域全体の経済成長のけん引

指標の種別	指標	単位	指標の考え方 (数値の算出方法)	目標設定 の分類	基準値	R12(2030)
						目標値
基本目標	製造品出荷額等	円	コロナ禍前の増加のペース(=H26-H30までの「年平均増加額」)は、1,067,520万円(106億7,520万円)。最終年までこのペースで成長させる。 ⇒基準値に7年分の「年平均増加額」を加算した値は179,472,640万円。	増加指標	1兆7,200億 [2023年]	1兆7,950億
	総所得金額等	円	コロナ禍前の増加のペース(H26-R1までの「年平均増加額」)は、6,264,597千円(62億6,459万7千円)。最終年までこのペースで成長させる。 ⇒基準値に7年分の「年平均増加額(H26-R1)」を加算した値はR7で6,687,5218万円。	増加指標	6,249億 [2023年]	6,688億
K P I	農業産出額	億円	本圏域での部門別割合は稲作が圧倒的である。コロナ禍に大幅に減少し、近年は回復傾向にある。富山県「農業・農村振興計画」に掲げる年1%増加を目指す。	増加指標	259.7 [2023年]	278.4
	県西部の延べ宿泊者数	千人	圏域内での周遊できる観光プランの開発など、滞在時間を延ばし、観光消費額の単価を上げることが有用であることから、経済的効果を測るため、延べ宿泊者数を指標とする。実績)R3:759千人、R4:957千人、R5:1,241千人、R6:1,097千人 R6から5か年で8%の増を見込む(県西部6市の入込客数の増加率と合わせる)。	増加指標	1,097 [2024年]	1,184

第3期ビジョンにおける基本目標及びKPIの設定について

圏域の役割

(2) 高次の都市機能の集積・強化

指標の種別	指標	単位	指標の考え方 (数値の算出方法)	目標設定 の分類	基準値	R12(2030)
						目標値
基本目標	主要駅の日当たり乗車人数	人/日	・城端線・氷見線及びあいの風とやま鉄道の主要駅の1日あたりの乗客数(JR、あいの風発表)の合計値 ・基準値はR6年度とし、城端線・氷見線は再構築事業での目標値と合わせR6年度 9,264人から移管後は12,000人を目指す(+2,736人)あいの風はR6年度の基準値14,005人現状維持を目指す。	増加指標	23,269 [2024年]	26,005
K P I	地元大学生の県内就職率	%	富山大学・富山県立大学・富山国際大学・富山短期大学・富山福祉短期大学・富山高専の卒業生のうち、就職希望者の県内就職率。 ※出典:富山県「富山県の高等教育機関」	維持指標	51.8% [2022-2024平均]	51.8%

第3期ビジョンにおける基本目標及びKPIの設定について

圏域の役割

(3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

指標の種別	指標	単位	指標の考え方 (数値の算出方法)	目標設定の分類	基準値	R12(2030)
						目標値
基本目標	圏域人口の社会動態 (転入者数-転出者数)	人	R4には均衡、R5には転入超過となったが、R6では能登半島地震の影響もあり、圏域全体では転出超過となっている。生活関連機能サービスの向上に資する連携施策の展開により、R12年度には、転入者数と転出者数の均衡を図る。	維持指標	▲293 [2024年]	±0
K P I	要介護（要支援） 認定率	%	健康づくりに資する圏域と各市の様々な取組によって健康寿命の延伸を図る。 R6年度末の認定率は19.9%となっており、第2期ビジョンで掲げた6市分のR7推計値である目標値「20.4%」を下回っており、第3期ビジョンにおいても引き続き目標値の維持に努める。	維持指標	19.9% [2025年3月末]	20.4%未満
	企業立地件数	件 (累計)	各市が分譲する既存の企業団地や工場適地及び新たに企業誘致を促進するエリアにおける、新規の企業立地件数を基に積算する。※1企業／1市・年とし、各年5企業を目標値とする。	増加指標	5	25
	移住・定住者数	人	過去3か年の移住実績(平均値)の10%増を目指す。	増加指標	403 [2022-2024年平均]	443